

2020年2月21日

報道関係者各位

特別展「先住民の宝」

2020年3月19日(木)～6月2日(火)

国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園 10-1)では、特別展「先住民の宝」を、2020年3月19日(木)から6月2日(火)まで開催します。

世界には、現在、70カ国以上の国々に、約3億7000万人の先住民が暮らしており、その民族の数は少なくとも5,000と言われています。西欧列強の植民地化等により、先住民は苦難の歴史を歩んできましたが、現在においてもなお、圧政や差別に苦しむ先住民がいます。

本特別展では、国立民族学博物館に所属する研究者の最新の研究成果を元に、9つの国や地域に暮らす先住民をとりあげ、先住民の歴史や現在の暮らし、彼らが抱える問題や国家の課題など、先住民をとりまく状況を紹介します。

本特別展で紹介する先住民の「宝」とは、金銀財宝のことではありません。それは、彼らが大切にしている家族や親族、気の合う仲間かもしれませんし、海や森などの自然環境や生活用具の場合もあるでしょう。祭りや儀礼、伝統芸能、あるいは、彼らの心の中にある民族の誇りやこの世には存在しない精霊や祖先かもしれません。いずれにしても、彼らの日々の生活にあたたかな光を与えるもの、それが彼らの宝なのです。

逆境にありながらも日々を力強く生きてきた先住民にとって、宝は心の拠り所であり、民族としての誇りです。そして何よりも、宝は、彼らにとって、希望そのものなのです。本特別展をとおして、先住民の歴史や現状だけでなく、民族の誇りや継承されてきた文化の魅力、そして彼らが抱く未来への希望を感じ取っていただければ幸いです。



展示の見どころ

- 先住民の多様性を感じられる展示
- 国立民族学博物館の研究者がフィールドとする9地域の先住民を紹介
- 「ゴールデンカムイ」(『週刊ヤングジャンプ』(集英社)連載中)の原画展示

資料点数 約740点

展示内容

1. アボリジニ (オーストラリア)
2. オラン・アスリ (マレーシア)
3. タオ (台湾)
4. アーディバーシー (ネパール)
5. マヤ (グアテマラ)
6. サン、ソマリ (アフリカ)
7. 北西海岸先住民 (カナダ)
8. サーミ (北欧)
9. アイヌ (日本)



アクリル点描画 Janet Herbert 作
(オーストラリア アボリジニ)



仮面 (マレーシア オラン・アスリ)



神像 (ネパール ネワール)



木彫人形 (カナダ 北西海岸先住民)

関連イベント

みんなくゼミナール

第 502 回「アイヌ文学の世界——韓・日との比較」

会場 国立民族学博物館 講堂
日時 4月18日(土) 13:30~15:00 (13:00 開場)
講師 北原モコツウナシ
 (北海道大学アイヌ・先住民研究センター 准教授)
 齋藤玲子(国立民族学博物館 准教授)

参加方法 申込不要/参加無料
内容 アイヌ民族が伝承してきた物語は、登場するキャラクターや語り方などによっていくつかのジャンルに分けられてきました。朝鮮半島や日本の物語と比較し、共通点や違いについて考えます。



「世界のはじまりの話」
絵：小笠原小夜

ワークショップ「アイヌの矢作りと模擬狩猟体験」

会場 国立民族学博物館 本館第 5 セミナー室
日時 3月28日(土) 14:00~16:00 (受付開始 13:30)
 3月29日(日) 10:30~12:30 (受付開始 10:00)
講師 岡田恵介、山道陽輪(公益財団法人アイヌ民族文化財団 民族共生象徴空間運営本部 職員)
司会進行 齋藤玲子(国立民族学博物館 准教授)
定員 各回 22 名
対象 小学 4 年生以上 (小学生は保護者同伴)
参加方法 要事前申込(申込者多数の場合は抽選)/参加費 300 円/要特別展示観覧券
 ※申込フォームまたは往復ハガキでご応募ください。
 ※申込受付:3月3日(火)~3月17日(火)

内容 アイヌの狩猟文化についての講義を聞いたあと、ひとりひとりが矢を制作し、動物に見立てた的に向けて矢を射る体験をします。また、講師による仕掛け弓狩猟の実演をとおしてアイヌの知識や技術について学びます。

ワークショップ「ボードゲームで学ぶ・考える 北極域の環境変化と人」

会場 国立民族学博物館 本館第 3 セミナー室
日時 4月4日(土) 10:30~12:30 (受付開始 10:15)
 14:00~16:00 (受付開始 13:45)
講師 大石侑香(国立民族学博物館 特任助教)
定員 各回 24 名
対象 中学生から大人
参加方法 要事前申込(先着順)/参加無料
 ※申込フォームまたは往復ハガキでご応募ください。
 ※申込受付:3月3日(火)~



『The Arctic』体験ワークショップのようす
(2019年11月27日大阪教育大学)

内容 北極では海氷が急激に減少し凍土の融解も進んでいます。北極の自然環境の変化は航路利用や資源開発を容易にするだけでなく、そこに住む先住民や生き物の暮らしに影響を与えています。本ワークショップでは、極北先住民の現在について講義を聞いたあと、北極域研究学習ツール(ボードゲーム)『The Arctic』をプレイしながら、北極環境変化と社会への影響について学びます。

ボードゲーム 北極域研究推進プロジェクト (ArCS) <https://www.arcs-pro.jp/>
制作
・ 海洋研究開発機構
・ 北海道大学
・ 国立極地研究所
日本科学未来館 <https://www.miraikan.jst.go.jp/>

ワークショップ「ペーパークラフトでトーテムポールをつくろう」

会場 国立民族学博物館 本館第3セミナー室、本館展示場
日時 5月2日(土)、5月3日(日・祝) 13:00~15:30 (受付開始 12:30)
講師 田主誠(版画・造形作家)
岸上伸啓(国立民族学博物館 教授(併任))
定員 各回 25名
対象 小学生以上 (小学3年生以下は保護者同伴)
参加方法 要事前申込(先着順) / 参加費 300円 / 要展示観覧券
※申込フォームまたは往復ハガキでご応募ください。
※申込受付: 4月2日(木)~
内容 カナダの北西海岸先住民の歴史と文化についての解説をきいた後、本館前庭で実物のトーテムポールを観察し、各自が紙を用いてオリジナルのトーテムポールを制作します。

みんなく Sama-Sama (サマサマ) 塾 プレゼント企画

会場 国立民族学博物館 特別展示館
日時 3月26日(木) 14:00~、4月25日(土) 14:00~、5月24日(日) 13:00~
定員 景品が無くなり次第終了
対象 観覧者どなたでも
参加方法 スタンプ・ラリーに参加 / 要特別展示観覧券
内容 みんなく Sama-Sama 塾塾生によるプレゼント企画。スタンプ・ラリーを完成させた観覧者に、塾生たちが景品をプレゼントします。

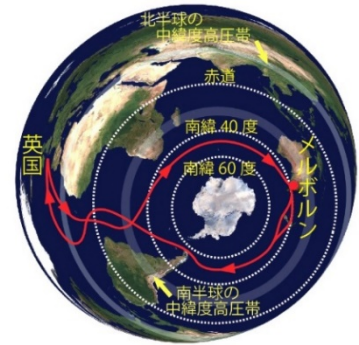
友の会講演会「トーテムポール—カナダ北西海岸先住民の宝」

会場 国立民族学博物館 本館第5セミナー室
日時 4月4日(土) 13:30~14:40
講師 岸上伸啓(国立民族学博物館 教授(併任))
定員 当日先着 96名
参加方法 事前申込不要 / みんなく友の会会員: 無料(会員証提示)、一般: 500円
お問い合わせ 国立民族学博物館友の会(千里文化財団内) 06-6877-8893
内容 北アメリカ北西海岸地域にある先住民の村々には、動物や人間などの姿を彫りこんだ巨大な木柱が、多数立てられています。それらはトーテムポールとよばれ、現在、ハイダやクワクワカワクウなど各民族の宝であり、象徴です。トーテムポールとは何か、その歴史の変遷、現在の制作状況とそれに関連するポトラッチ儀礼について解説します。
また 1972年、そして 2020年に立てられる、みんなくの新旧2本のトーテムポールの制作についても紹介します。
※講演会終了後、特別展の見学会をおこないます。
(40分 / 要会員証もしくは特別展示観覧券)

みんなくウィークエンド・サロン——研究者と話そう
研究者が展示場に登場し、展示や研究についてお話しします。

「風がもたらす異文化接触」

会場 国立民族学博物館 ナビひろば
日時 3月22日(日) 14:30～15:00
講師 久保正敏(国立民族学博物館 名誉教授)
参加方法 申込不要／要展示観覧券
内容 祖先が約5万年前にオーストラリア大陸に到達したという先住民アボリジニ。離れた大陸に住む彼らと外部との接触には、大気の大循環がかかわります。白人に発見され英国植民地になった経緯も風が大きな要因です。地球をズームアウトして考えてみましょう。



南極から見た地球儀と英国航路

「旅と映画とマヤ民族」

会場 国立民族学博物館 ナビひろば
日時 3月29日(日) 14:30～15:00
講師 鈴木紀(国立民族学博物館 教授)
参加方法 申込不要／要展示観覧券
内容 特別展「先住民の宝」では、グアテマラのマヤ民族を取り上げています。マヤ民族とはどのような人びとなのか、「旅」と「映画」を手掛かりに考えます。私が1983年と2019年に行ったグアテマラへの旅を比較し、その間に何が生じたのかを「映画」から読み取ります。



グアテマラのサン・フランシスコ・エル・アルトの市場に客を運ぶ路線バス

「サーミの工芸品」

会場 国立民族学博物館 特別展示館
日時 4月5日(日) 14:30～15:15
講師 庄司博史(国立民族学博物館 名誉教授)
参加方法 申込不要／要特別展示観覧券
内容 サーミ人にとって、サーミ工芸は今日も生活をささえる、伝統文化をいかした重要な生業です。生活の近代化によりかつての工芸品の多くは便利は製品におきかわり、サーミの工芸品をまねた安価な製品も出回るなかで、彼らの工芸品をまもる努力を紹介します。



観光・実用工芸品とともに美工芸品として活路を探るサーミナイフ

「ネパールの先住民運動」

会場 国立民族学博物館 特別展示館
日時 4月12日(日) 14:30～15:00
講師 南真木人(国立民族学博物館 准教授)
参加方法 申込不要／要特別展示観覧券



ネパールの民族政党「人民解放党」の行進

内 容 ネパールの先住民(アーディバーシー)とは誰のことで、何を求めてどのような運動をしているのでしょうか。1990年代に始まった運動の経緯と過程をふまえつつ、2008年の王制廃止後、連邦民主共和国となってからの先住民の動向を考えます。

「台湾原住民運動40年——「高山青」から移行期正義まで」

会 場 国立民族学博物館 ナビひろば
日 時 4月19日(日) 14:30~15:15
講 師 野林厚志(国立民族学博物館 教授)
参加方法 申込不要／要展示観覧券
内 容 台湾には原住民族とよばれるオーストロネシア系先住民がくらししてきました。原住民族は1980年代から先住民族としての権利と尊厳を主張し、現在では台湾の憲法において先住民族としての存在が認められています。その40年にわたる誇りをかけた営みをお話します。



異なる民族の人たちが集う機織りのワークショップ。
2019年11月野林撮影
於苗栗県象鼻村野桐工房。

「アフリカの先住民について」

会 場 国立民族学博物館 ナビひろば
日 時 4月26日(日) 14:30~15:00
講 師 池谷和信(国立民族学博物館 教授)
参加方法 申込不要／要展示観覧券
内 容 アフリカ大陸には、多様な民族集団が暮らしています。その領域は、国境と一致することはあまりありません。はたして先住民は、アフリカに存在するのでしょうか。ここでは、アフリカの先史時代から現在までの民族の歴史をふまえて、誰がアフリカの先住民であるのかという問いを設定して考えます。具体的には、カラハリ砂漠のサン人やソマリランドのソマリ人の事例を紹介します。



都市に暮らすソマリの人びと

「カナダ北西海岸先住民文化の歴史と現状」

会 場 国立民族学博物館 特別展示館
日 時 5月3日(日・祝) 14:30~15:00
講 師 岸上伸啓(国立民族学博物館 教授(併任))
参加方法 申込不要／要特別展示観覧券
内 容 ヨーロッパ人が到来する以前からカナダの太平洋沿岸地域に住んでいる人びとは、北西海岸先住民と呼ばれています。昔からポトラッチ儀礼や、木製のトーテムポールや仮面などを作ることで有名です。彼らの文化の歴史と現状を特別展「先住民の宝」を見ながら紹介します。



ハイダのトーテムポールの建立

「100年前のアイヌのくらしと現代の文化」

会 場 国立民族学博物館 特別展示館
日 時 5月10日(日) 14:30~15:00
講 師 齋藤玲子(国立民族学博物館 准教授)
参加方法 申込不要／要特別展示観覧券

内 容 特別展で原画を展示する漫画『ゴールデンカムイ』は、北海道と樺太(サハリン)を舞台にした冒険活劇で、そこに描かれるアイヌのくらしはおよそ100年前のものです。明治から現代に至るまでの歴史と、生活が変化するなかでも受け継がれてきた文化について紹介します。



「オラン・アスリと精霊」

会 場 国立民族学博物館 ナビひろば
日 時 5月24日(日) 14:30~15:00
講 師 信田敏宏(国立民族学博物館 教授)
参加方法 申込不要/要展示観覧券
内 容 特別展「先住民の宝」では、マレーシアの先住民オラン・アスリの彫像や仮面が展示されています。これらの彫像や仮面には、それぞれ精霊の名前がついています。オラン・アスリと精霊について詳しく解説します。



つむじ風の精霊

開催概要

展覧会名 特別展「先住民の宝」
会 場 国立民族学博物館 特別展示館
会 期 2020年3月19日(木)～6月2日(火)
開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)
休 館 日 水曜日(ただし4月29日(水・祝)、5月6日(水・休)は開館
 4月30日(木)、5月7日(木)は休館)
観 覧 料 一般 880円(600円) 大学生 450円(250円) 高校生以下 無料
 ※本館展示もご覧いただけます。

*()内は、20名以上の団体、大学等(短大・大学・大学院・専修学校の専門課程)の授業での利用、リピーター、満65歳以上の方の場合の料金。

主 催 協 力 国立民族学博物館
 UMAK ノルウェー・アーケティック大学博物館・芸術学院
 公益財団法人アイヌ民族文化財団
 株式会社札幌丸井三越
 集英社「週刊ヤングジャンプ」
 千里文化財団
 総合地球環境学研究所
 北海道大学アイヌ・先住民研究センター
 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究ユニット(UBRJ)

実行委員長 信田敏宏(国立民族学博物館教授)

専門は社会人類学、東南アジア研究。主な著書に『周縁を生きる人びと——オラン・アスリの開発とイスラーム化』(京都大学学術出版会 2004 年)、『ドリアン王国探訪記——マレーシア先住民の生きる世界』(臨川書店 2013 年)、『「ホーホー」の詩ができるまで——ダウン症児、こころ育ての 10 年』(出窓社 2015 年)、『「ホーホー」の詩、それから——知の育て方』(出窓社 2018 年)、『家族の人類学——マレーシア先住民の親族研究から助け合いの人類史へ』(臨川書店 2019 年)、共編著に『グローバル支援の人類学——変貌する NGO・市民活動の現場から』(昭和堂 2017 年)、『東南アジア文化事典』(丸善出版 2019 年)などがある。



実行委員

池谷和信	国立民族学博物館 教授
岸上伸啓	国立民族学博物館 教授(併任)
齋藤玲子	国立民族学博物館 准教授
鈴木紀	国立民族学博物館 教授
野林厚志	国立民族学博物館 教授
南真木人	国立民族学博物館 准教授
川瀬慈	国立民族学博物館 准教授
庄司博史	国立民族学博物館 名誉教授
久保正敏	国立民族学博物館 名誉教授

館外実行委員

本谷裕子	慶應義塾大学 教授
立川陽仁	三重大学 教授
北原次郎太(モコットウナシ)	北海道大学 准教授
田村将人	国立アイヌ民族博物館設立準備室 主任研究員
阿部健一	総合地球環境学研究所 教授

館外協力者

ロッセツラ・ラガツツイ トロムソ大学

[お問い合わせ] 国立民族学博物館 総務課 広報係
 電話:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail:koho@minpaku.ac.jp
 プレス向けウェブサイト www.minpaku.ac.jp/press

特別展「先住民の宝」 広報用画像リスト



①

②

③

④

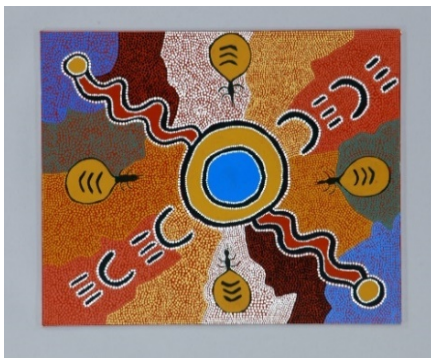
【1】特別展チラシ



【2】彫像(マレーシア オラン・アスリ)



【3】仮面(マレーシア オラン・アスリ)



【4】アクリル点描画 Janet Herbert 作
(オーストラリア アボリジニ)



【5】舟(台湾 タオ)

特別展「先住民の宝」 広報用画像リスト



【6】仮面(ネパール ネワール)



【7】女性用衣服(グアテマラ マヤ)



【8】化粧品入れ(アフリカ サン)



【9】銅板紋章 Gerry Marks 作(カナダ ハイダ)



【10】ナイフ(北欧 サーミ)



【11】山刀(日本 アイヌ)

これらの広報画像はデータにて提供可能です。

ご入り用の画像があれば、総務課広報係まで次頁申込用紙にてお申し込みください。

資料名につきましては、展示場での表記と異なる場合がございます。

特別展「先住民の宝」広報用画像利用申込用紙

【ご希望の画像番号】

--

【貴社・貴機関について】

貴社・貴機関名	媒体名
ご担当者名	所属部署
所在地 〒	
電話番号	E-mail
ご掲載・放映の予定日	年 月 日

【プレゼント用招待券】（ご希望の場合はどちらかにチェックを入れてください）

3組6枚 5組10枚

※チケット発送先が上記所在地と異なる場合は、下記にご記入ください。

発送先 〒

【申込先】

■ メール koho@minpaku.ac.jp または ■ FAX 06-6875-0401

【広報に関するお願い】

- 写真使用に関するお願い、注意事項
 - ・クレジットには次のとおり記載してください。
【2】～【5】、【7】～【11】 国立民族学博物館蔵
【6】 個人蔵
 - ・写真（画像）のトリミングや文字乗せはご遠慮ください。
 - ・作品写真の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。
- 本館の基本情報等の確認のため、メールまたはFAXにて、掲載記事、番組内容の原稿等を下記連絡先までお送り願います。
- お手数ですが、掲載紙・誌または録画媒体を2部お送りください。